

5つの動く

- 1 教育のまち「三木モデル」の構築へ、動く
- 2 定住促進や雇用の確保に、動く
- 3 三木ブランドの更なる向上へ、動く
- 4 地域の課題解決に、動く
- 5 三木の未来を守るため、動く

1 教育のまち「三木モデル」の構築へ、動く

わが子の教育は三木で受けさせたいと思ってもらえるよう、「教育のまち三木」として、教育を通じて世代の好循環を生み出す。

◆「未来を創る学力育成三木モデル」への取組

- 1人1台のタブレットを活用し、自ら学ぶ授業スタイルとすることで学習効果を上げるとともに、発展的な学習への挑戦や児童生徒同士の学び合いにより豊かな学力を育成する
- 教育センターの活用や「自己実現につながる学力」の育成をめざした講演会の開催、各学校への研修講師の派遣により、教職員の意識改革と授業改善をめざす

◆小中一貫教育体制への移行

- 義務教育9年間を一体的にとらえ、つながりのある教育によって、小中一貫教育を推進。また、別所と吉川の小・中学校4校を小中一貫教育実践推進校に位置づけ、推進に向けて実践的に取組を進める

し、子どもや子育て世代が集う活力あるまちの創造をめざします。



◆高校生までの入院に係る医療費を無償化

◆地域の子どもは地域が育てる「三木モデル」の構築

- 生活困窮世帯の子どもに対する学習・生活支援を市内公共施設を活用して実施
- 「子ども食堂」への支援を拡充

誇りを持って暮らせるまち三木
「動」き出す！未来へ続く好循環

令和4年度三木市施政方針

問(市)企画政策課

2月25日(金)に第369回三木市議会定例会を開催し、仲田一彦市長が施政方針を発表しました。その中から、重要取組などについてお伝えします。

施政方針の全文は、市ホームページからご覧いただけます。



ホームページはこちら

コロナ禍での対応

令和4年度においても、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響から市民生活および地域経済を守ることを最優先の課題とする方針を維持します。「暮らしに必要な支援を届ける」、「地域経済を守る」、「市民サービスの基盤を守る」ため、状況に応じた支援策を打ち出し、三木市を守る取組を続けます。

地方回帰とデジタル社会の到来

コロナ禍での生活により、密を避ける行動様式が定着し、都市の活力と地方のゆとりの両方を享受できる地方回帰の機運が高まっています。国によるデジタル化の動きに合わせ、総合政策部に新たに「デジタル推進課」を設置し、市民サービスの一層の向上を図り、行政のデジタル化を進めます。市役所に行かなくても、すべての手続きがオンラインで完結できるよう取組を進めます。

未来へ続く好循環

令和2年国勢調査の結果が発表され、国立社会保障・人口問題研究所が平成27年に公表した人口推計の数値を2,056人上回ることでできました。しかし、依然として少子高齢化による人口減少と東京一極集中が日本全体の社会問題であることを踏まえると、三木市の人口は今後も減少することが見込まれます。

常に20年、30年先の三木市のあるべき姿を想像し、人口が減少することに対応したまちづくりをしっかりと行っていく予定です。

一方、人口減少の速度が緩やかになるよう、三木に縁のある若い世代が魅力を感じ、三木市で暮らしたいと思えるような積極的な施策も取り入れます。

本年は、「動く」をテーマに、市政が実際に動き出しているということをも市民の皆さまに実感していただけるまちづくりを進めます。

4 地域課題解決に、動く

地域の発展をめざし、行政が行うべきこと、地域に担っていただくこと、そして力

を合わせ協働で取り組むべきことの役割分担を行い、地域の課題解決に取り組みます。

◆市政懇談会の継続実施

○区長をはじめとする住民の皆さまが洗い出し、整理した課題を、地域と市の協働により解決を図る



◆地域の課題解決への取組

○別所地域の雨水対策に引き続き取り組む
○通学路の安全対策は、地域からの提案を聴きながら、危険箇所の安全対策や安全確保に向けた取組を継続的に進める



5 三木の未来を守るため、動く

財政的に体力のある今のうちから、20年、30年先の未来を見据え、子や孫の世代にこの美しい三木市を健全にかつ安定的

につないでいけるよう、持続可能な財政基盤の確立をめざします。

◆国民健康保険特別会計の健全化

○国民健康保険財政健全化計画に基づき、標準保険税率と同水準となるよう税率を改定するなどにより、赤字を解消する



◆市の財政の健全化

○将来のまちづくりに必要となる新たな施策を推進しながら、持続可能なまちとして財政収支の均衡を図っていくため、自主財源の確保をはじめ各種事業の見直しなどに取り組む

◆青山7丁目団地再耕プロジェクトの推進

○大和ハウス工業から市に贈与される土地1.5ヘクタールの造成工事に着手し、交流エリアの基本構想を策定

令和4年度当初予算にかかる主な事業については、広報みき5月号でお知らせします。

4月から市役所の組織が一部変わりました

- 総合政策部に「デジタル推進課」を設置(市役所1階)
- 総務部総務課「文書・統計係」を総合政策部企画政策課に移管(市役所4階)



2 定住促進や雇用の確保に、動く

新婚世帯への支援に力を入れ、経済的理由による晩婚化の解消を図るとともに、出生率の向上、定住人口の減少の抑制を図り

ます。また、ひょうご情報公園都市次期工区の整備は、雇用確保策として県・市協働で取り組みます。

◆全国初！新婚世帯に最大100万円を支援

○新婚世帯への支援を拡充し、令和4年1月1日以降に入籍された39歳までの夫婦(別途要件あり)に30万円を支給。さらに、29歳までの新婚夫婦で、市の空き家バンクに掲載された物件を購入した場合に最大70万円を上乗せで支給

◆ひょうご情報公園都市次期工区の開発

○県・市共同事業として令和6年度の工事着手、令和8年度の一部分譲開始に向けた取組を実施



▲ひょうご情報公園都市

3 三木ブランドの更なる向上へ、動く

「三木金物」、「酒米山田錦」、「ゴルフ」、三木市が誇る地域ブランドの更なる向上をめざし、地域の活性化を図ります。

また、新しく生まれ変わる三木駅舎で、この3大地域資源を情報発信します。

◆三木金物

○金物鷲を道の駅みきに常設展示
○アフターコロナを見据え、三木金物商工協同組合連合会が実施する海外展示会への出展を支援

◆酒米山田錦

○山田錦の郷の活性化として、吉川体育館跡地を活用し、観光ツアーの大型バスも駐車できるようスペースを拡大
○農業振興プランナーを配置し、「人・農地プラン」の作成と中心経営体の立上げを支援
○ほ場整備事業の実施(吉川町米田地区・吉安下地区)
○コロナ禍での農家収入の減少に対して、減収分の一部を経営継続支援金として交付し、生産継続を支援



◆ゴルフ

○春高・春中ゴルフ、スナッグゴルフ対抗戦JGTOカップ全国大会を開催
○日本高等学校・中学校ゴルフ連盟主催の全国中学生教育合宿を誘致

